

# 1. 評価結果概要表

作成日 H19年11月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201454		
法人名	医療法人 梶田医院		
事業所名	グループホーム みのりの里たんぽぽ		
所在地	〒859-3234 長崎県佐世保市長畑町450番地1 (電話)0956-20-4625		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成20年1月16日

【情報提供票より】(平成19年10月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤(専任)5人 非常勤3人(含夜勤)	常勤換算 8.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		850 円

### (4) 利用者の概要(10月3日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院	千住病院	川原歯科医院
---------	---------	------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関の前では、のっぽの案山子が出迎えており、ホーム内は気品のある雰囲気漂う環境で、広い共用空間には犬がマスコットの共存し愛嬌と和みを提供している。【その人らしい生き方】をキーワードに、現場職員の予測によるケア、リスクを考慮した対応、入居者が嫌だと思わない等、サービスを提供する上での配慮とコミュニケーションを通じた信頼関係作り、日々、取組まれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の主な改善課題は、入居者の意向の把握やアセスメントに関すること、職員の段階に応じた研修受講と情報の共有である。前者は、入居者や家族とのコミュニケーションの機会を増やすことにより本人の意向の把握やアセスメントの情報量の増大に繋がっている。後者の職員の研修受講に関しては、色々な研修受講の機会を設け、受講後の報告書作成と発表の場面作りで職員間での情報の共有に繋がられている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価のプロセスを通して【外部とのかかわりの必要性】を痛感されており、分析し検討中である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	これまでに4回の運営推進会議を開催されており、ホームからは事業内容や取り組みの状況など報告され、出席メンバーからは気づきや質問など受けられている。地域環境に即したマナー面での注意は、地域密着型の事業所には有難く、真摯に受け止めて実践に繋がられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情というよりは家族の気づきや意向などとして伝えられており、伝えられたことは真摯に受け止め改善対応されている。又、退居された家族が運営推進会議のメンバーに入っておられ、利害関係のない中立の立場での意見の発言をいただかれており、運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とは災害時の協力体制作りができています。入居者の行きつけの洋品店や美容室は本人の拠り所となっていて、2~3時間はそこで寛がれており、お店の方も快く対応されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【実りたたる稲穂のように いつまでも自分らしくあり続ける】の理念と、具体的介護目標を掲げられ、地域を意識した取り組みを心がけられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(その人らしい生き方)をキーワードに、全職員が決まりごとではなく、入居者の希望や意向を受容する姿勢でケアサービスの提供に臨まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とは災害時の協力体制作りができています。入居者の行きつけの洋品店や美容室は、本人の拠り所になっていて、2～3時間は寛がれており、お店の方も快く対応されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目については、改善計画シートを作成をされ、気づきや目標、評価など記録されている。更に、今回の自己評価のプロセスを通して、(外部とのかかわりの必要性)を痛感されており、分析・検討中である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに4回の運営推進会議を開催されており、ホームからは事業内容や取り組みの状況など報告され、出席メンバーからは気づきや質問など受けられている。地域環境に即したマナー面での注意は、地域密着型の事業所にとっては有難く、真摯に受け止め、実践に繋がられている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への外部評価や運営推進会議の報告など、統括責任者の施設長がされている。又、管理者も新任(2月雇用)で経験はあられるが、ホーム環境・実態の把握に暇がないのが現状である。		施設長との(報・連・相)を密に取られ、ホームに必要な市の多機能相談窓口をホーム運営に取り入れられることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時などに入居者の状態や暮らしぶりなどを伝えたり、たよりの郵送などで間接的に報告されている。又、必要時は電話連絡などで迅速な対応と家族の安心に繋がる取り組みをされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情というより家族の気づきや意向で伝えられており、伝えられたことは真摯に受け止め改善・対応されている。卑近の例では、ホーム近辺の交通マナーに関する方向指示器の確実な作動要請がある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の運営方針で、春に職員の希望も踏まえた中で、職員の活性化・マンネリ化防止のため職種間同士の異動があり、バランスなど考慮すると共に入居者へのダメージも最小限に抑えるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・学習会は、医療関係を中心とした内容の取り組みではあるが介護現場との共通性も多く、出席者全員が報告書を作成し、全ての報告書に全員が目を通し、統一見解の下、業務に反映されている。又、外部研修は職員の段階に応じた受講対応をされており、受講後はレポート提出と発表の機会が設けられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の職種別会議にそれぞれ出席し、意見交換や学習交流をされている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>時間をかけての本人の納得や、安心を見定めてのサービスの開始とまでは行かないが、見学を通して入居の受け入れをされている。入居間もない頃は、職員との1対1の対応の時間を多く取り、コミュニケーションやふれあいを通して、本人の居場所や環境に馴染んでもらえるよう工夫・配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>疑似体験を通した中で、入居者の動作や視野を考慮し(優しく、ゆっくりしたテンポ)でスロー介護を心がけられ、話も傾聴の姿勢で対応され、常に共通性を大事にされている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>コミュニケーションや日常生活を通した入居者の何気ない言動や観察を基に、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に繋がられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>認知症や身体レベルの改善や現状維持に繋がる介護計画を意識されており、その中に本人や家族の意向を取り入れられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月毎の目標の見直し・評価と基本的な見直しが3ヶ月に1回されているが、ほとんどが継続に繋がっている。又、ケース記録は生活提供記録が中心で介護計画に沿った記録等、次の介護計画に繋がる記載がなく現状に即した介護計画の見直しに反映されていない。</p>		<p>ケース記録の様式・書き方を検討され、現状に即した介護計画の見直しが望まれる。</p>

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者に対しては、寺参りなど特別の外出の支援をされている。地域・一般に対しては、ヘルパー養成研修の受け入れ、高齢者の困りごと、認知症などに関する相談の対応などされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム提携の主治医以外に入居者個別のかかりつけ医の受診支援をされており、受診時は情報提供票の双方のやり取りで医療連携に繋がられている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針の作成・準備はされているが、現時点までの家族の希望は病院での対応がほとんどである。ホームとしては職員の能力も考慮し、今後は本人・家族の希望に沿えるよう職員の育成と状況変化や段階的な合意の必要性に対応できる準備内容を検討されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対しての言葉かけや態度は尊厳に留意されており、自然体である。又、記録などの個人情報の取り扱いも特定の場所に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の流れの中に、入居者の希望などが取り入れられている。食事のペースやレクレーションへの参加など、入居者の状態や気分など考慮した支援がなされている。		

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ダイニングキッチンになっており、調査当日の昼食時、入居者が食事をしている傍らで職員が洗い物をしている光景と騒音が気になった。		ゆっくり落ち着いた環境の中で、職員も含めた共同生活者が団欒の食卓を囲める環境の提供が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週3回(月・水・金の午前中)に入浴支援をされており、当日は日勤帯を1人増やして対応されている。特例としてお風呂好きの入居者の誕生日のお祝いに、日曜日を利用して、バラ風呂にゆっくり入ってもらい、満足感を提供されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	デイサービスを通して、習字の練習に2週間に1度通われたり、行きつけの化粧品・洋品店でフェイスマッサージを受けられたりと入居されてからもこれまでのかわりの継続性の支援で楽しみごとや気晴らしに繋がられている。又、毛染めなどで気分転換の配慮もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者とのコミュニケーションを大事にされており、訴えがあれば可能な限り外出の支援に繋がられている。入居者によっては、数時間行きつけのお店で寛いだ時間を過ごされることもあり、お店の人の理解と協力を得られている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠されていないので、職員が手薄になるときや見守りが行き届かない時などは、センサーを稼働させた対応で安全・安心に繋がられている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回非難・救出訓練はされているが、自然災害に対する手順や連絡体制網、持ち出し品リスト、備蓄品などライフラインに繋がる取り決めはされていない。		自然災害に備えたライフラインに繋がる取り決めが望まれる。

グループホーム みのりの里たんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、目の離せない入居者がおり、職員が手薄になる朝食の時間帯は当面の対応策として、前日の夕食のおかずが1品提供されている。状況が改善次第、正規の献立作成による食事の提供に戻される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下など広い共用空間の中に、ソファ - や畳の間があり、片隅にドッグハウスも設置されており、犬とのふれ合いを感じながら、集いや独り居が選べる環境である。調度品や装飾なども大人の気品が漂い、高齢者に馴染みのある七福神など、さりげない気配りがされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からは、入居者の個性や趣味、生活歴など窺い知ることができ、生活感が溢れている。		